

社会福祉法人あおば福祉会  
おひさま岡町保育園  
2024年度（第24年度）事業計画

## はじめに

2022年度より管理職が交代し、3年目を迎え中長期計画（3年計画）の達成に向けた1年となります。保育を語り合える「語り合いの保育」に取り組み、さらなる意識の向上に努めたいと思います。2023年度は第三者評価受審に参加し、これまでのおひさま岡町保育園の歴史を振り返り、日々の保育の自己評価を行い、職員集団づくりに取り組みました。評価結果も踏まえ、新たな課題にも職員一同で力を合わせ、理念や基本方針に基づき、こども・保護者・職員・地域の視点を大切に事業計画の実現に取り組みます。

保育では、大切にしたい保育内容・特徴の3本柱に6つの会を新たに創設し、領域の保育実践を進めていきます。また乳児保育では、0歳児、0・1歳児、1歳児のクラス編成を組織し、月齢差の解消に努め、活動の保障や発達要求に応じていく少人数保育を実践し、一人ひとりを大切にする保育を追求していききたいと思います。

2025年度は25年周年を迎えます。子ども達をまん中に、法人の歴史、理念や基本方針に基づき、「保育は創造、保育に科学とロマンを」の先人の言葉から現代にあった保育実践を創りだし、こどもも大人も夢をかなえる保育園づくりに努めていきます。

## ◆大切にしたい保育内容・特徴

- (1) 「食べることは人とつながり生きること」の方針にもとづき、栽培・クッキング活動、お手伝い活動、食文化の学びに取り組み、食を通して、人とのつながりや自然とのかかわりから生きる力につながる保育。
- (2) やりたいおもいが実現する身体づくりに向け、園外保育の充実や体育あそびに取り組み、友達との関わりが豊かになる保育。
- (3) 各年齢に応じた手指を使った活動保障の研究に努め、表現活動の充実に取り組み、豊かな感性を育む保育。
- (4) 6つの会（食育・健康・人間関係・環境・言葉・表現）を創設し、こどもも大人も充実する保育。

## 1. こどもの入園予定

おひさま岡町保育園 定員：90名

(理事会当日現在)

クラス（対数）	定員	4月予定児童数	内支援児	新入園児数	継続児童数
0歳児（3：1）	15	11	0	11	0
1歳児（5：1）	15	15	0	4	11
2歳児（6：1）	15	15	0	2	13
3歳児（15：1）	15	15	0	1	14
4歳児（25：1）	15	15	1	0	15
5歳児（25：1）	15	14	0	0	14
合計	90	85	1	18	67

※一時保育事業実施

## 2. 職員体制と職員の状況（新規採用・異動職員）

新規採用者	保育士 有田 有香	2024年4月1日付（経験者）
異動者	保育士 曾我部知世	箕面保育園より異動
<u>正職員</u> ・・・・・・・・18名	園長1名・副主任3名（内栄養士1名）・保育士14名（内産休1名）	
<u>パート職員</u> ・・・・・・・・24名		
常勤パート職員 14名	保育士7名・看護師2名・栄養士1名・調理員2名・保育補助2名	
短時間パート職員 10名	保育士1名・栄養士1名・調理員1名・保育補助5名・事務員1名 子育て支援員1名	
<u>安全管理</u> ・・・・・・・・3名	シルバー人材センター 3名	
<u>嘱託医</u> ・・・・・・・・4名		
内科 なんばこどもクリニック	難波 直樹 医師	歯科 カワムラ歯科診療所 河村 忠成 医師
眼科 安藤眼科	安藤 誠 医師	耳鼻科 野口耳鼻咽喉科 野口 春彦 医師

### 3. 子どもの安全と健康・危機管理

#### (1) リスクマネジメント・危機管理学習会と事故・災害対応に努める。

- ① 安全計画に基づき、非常対策訓練及び消火訓練は毎月実施し、自然災害・人的災害の学習を深める。法人内の管理職による外部点検及び年1回、備蓄品を支部で共有する。BCPの策定に着手する。
- ② 児童虐待防止に向け、新年度会議、年4回のまとめの会議での議論、職員アンケート調査の実施を行う。
- ③ 感染症対策は、手洗い・うがい、換気等、安全な環境づくりに取り組む。
- ④ マニュアル（危機管理・保健・アレルギー）を使い、年間を通し学習や訓練、AED・心肺蘇生・エビペン講習を実施する。保護者と共に年3回（6月・9月・12月）の施設点検を実施する。
- ⑤ 乳幼児突然死症候群（SIDS）の防止に向けた5分チェックの徹底等に取り組む。
- ⑥ ヒヤリハットやインシデント・アクシデント等、具体的事例を通し事故防止につなげる。
- ⑦ 地域と連携を図り避難協力体制を確認し、非常出口からの避難想定訓練や小学校との連携訓練を行う。

#### (2) 子どもの権利を守る保育の追求を行う。

- ① こどもの権利擁護や子どもを尊重した保育、児童虐待防止に関し、全職員の学びを年2回実施する。また、保護者への周知徹底に向け、園だより5月、11月に特集を組み、相談体制を設ける。
- ② 人権の観点から乳幼児における性教育やジェンダーについて園内学習を行う。
- ③ プライバシーの観点から園内研修を実施し、保護者と考えあう機会を設ける。
- ④ こどもの権利保障に向け、アンケート調査を実施する。

#### (3) 保育環境・労働環境を守るために日々の点検を行う。

- ① 乳・幼児会議では、施設、遊具の使い方、ルール等の確認を行う。
- ② 保健・安全・防災委員会（環境づくりの会）を立ち上げ、リスクマネジメントに関する意識を高め、毎月の安全点検を行う。さらに、衛生推進者（看護師）を中心にマニュアルの徹底、保護者への働きかけ、職員の労働環境を守る。

### 4. 保護者の願いに応え、子どもと共に育ちあう関係を大切に

#### (1) 法人理念や基本方針に基づきながら、地域や保育園の規模など特性を生かした保育を行う。その中で保護者の要求や願いに応え、ともに育ちあう関係づくりに力を入れる。

- ① こどもや保護者が意見を述べやすい環境整備とアンケート実施による意見やニーズの把握に努め、保護者会、4者協と連携を図る。
- ② 保護者の要望を聞き取り、検討した年間行事や改善要望の実施、親睦・交流など、共感を深められるよう取り組む。（親子リズム・子育て講演会・親子遠足・運動会・キラキラフェスティバル・生活発表会等）
- ③ 年間を通じて、集会・合研等の学びにつなげ、子育て支援につなげていく。また、保護者の要望から誕生したバレーボール大会やCafé、お料理会など継続して交流の場を維持していく。
- ④ 卒園児の同窓会開催、ボランティア受入れ実施、卒園後の相談についても行う。【文書発行】
- ⑤ こどもの権利擁護や子どもを尊重した保育について、おたよりを発行し、児童虐待防止に関しても要配慮家庭や虐待等権利侵害が疑われる家庭に対し、個別面談を実施し、こども安心課、保健師との連携を図る。
- ⑥ ホームページ更新に伴い、こどもの育ちを保護者とわかちあう。
- ⑦ 育てる会と連携し、保護者・地域と共に子育てする喜びをつくりあげていく。

### 5. 地域に根差し、地域に必要とされる保育園をめざして（地域貢献事業）

#### (1) 地域に開かれた保育園を目指し、地域貢献事業にとりくむ。

- ① 地域サークル支援として、子育てサロン『さくらんぼ』（月1回）園内の子育てサロン『ぽっかぽかクラブ』でサークル支援を行う。地域（轟木公園）『ひと・まち・であい夏まつり』に参画する。
- ② 民生委員等も参画する地域ネットワーク会議に参加し、地域の状況を把握し、経営課題や分析した内容を事業につなげていく。
- ③ 園庭開放、離乳食・給食試食会、赤ちゃんの駅事業、子育て相談・地域相談等を実施する。

## (2) 地域の教育機関・施設との連携を行う。

- ① 幼保こ小連絡協議会への参加、地域福祉ネットワーク会議、社会福祉協議会の交流会に参加する。
- ② 豊中市子ども相談課や中部保健センターと連携し、定期的な観察記録を実施し、モニタリング対象児の継続的な見守りを行う。
- ③ 社会資源（伝統芸能館・図書館・幼保こ小・リサイクルプラザ・岡会堂）を活用した保育の充実をめざす。

## (3) 地域にとって大切な社会資源としての保育園をめざす。

- ① 子育て講演の実施 仮称「我が子を大切に育てる」 講師：陳氏・(6月)
- ② 実習生・ボランティアを受け入れ、未来の保育士養成や地域の社会資源としての役割を果たす。
- ③ 近隣の要望や意見を聞き、地域に必要とされる保育園をめざす。
- ④ ホームページ更新に伴い、子育て情報を発信していく。

## 6. 職員の資質向上をめざして

### (1) 研修計画に基づき、職員一人ひとりの目標が達成できるよう面談を実施する。

- ① 新採用面談（6月：専門リーダー）（9月：理事長）、職員面談（7月・2月）を実施する。
- ② 保育の質の向上につながる職員アンケートを年2回（夏・冬）実施する。
- ③ 自己目標について、おもいを共有し、年齢・階層別に必要とされる専門知識や技術を身につけける。
- ④ 年に1回の保育園の自己評価を行い、評価結果に基づき、計画に反映する。

### (2) 「実践」と「学習」が結びついた研修を実施する。

- ・年4回のまとめの会議の中で実践を語り合い、学びを深めていく。

### (3) 北支部内の施設連携を図り、園外研修参加の援助を行う。【研修計画】

- ① 各施設と連携し、あそび・文化・ことばに着目し、学ぶ機会をつくっていく。

### (4) 保育実践提案

- ① 提案 第56回全国保育団体合同研究集会（熊本） 4歳児保育 南・中西

### (5) 他施設との交流を通して学び合う。

- ① 姉妹園との交流、校区内の保育園との5歳児交流、子ども財団主催の研修へ参加する。
- ② 姉妹園の園内研修に積極的に参加する。

### (6) 職員の働きやすい環境づくりの整備に取り組む。

- ① 福利厚生観点から、ソフトボールやバレーボールなど、職員の運動したいおもいを実現する。
- ② 職員がワークライフバランスの充実に向け、有給休暇の消化率の向上（4期分析）や働き続けるための休憩時間の保障やノンコンタクトタイムで、事務時間の保障を行う。
- ③ メンタルケアも含め、日々の語り合いを大切にし、個別面談や相談できるよう環境をつくる。
- ④ 職員採用に向け、新卒5年目までの職員を対象に、母校に実習生や採用希望者を募る。

## 7. 中長期計画に関わって

### (1) 人材育成

- ① 園長1名・副主任3名で運営に責任を持ち、代表者会議6名で運営していく。
- ② 新採用職員も含め5年目未満の職員に対し、個別目標を明確にし、園内研修の充実をめぐる。
- ③ 北支部豊中地域での連携を図り、会議や行事等を通して人材育成に努める。
- ④ 育児相談員・スマイルサポーター（中西）の取得に向け研修参加する。

### (2) 施設整備

玄関アプローチ及び駐輪場の屋根	200万円
玄関完全オートロック化検討	
土地購入検討	

### (3) その他

- ・保育の専任主任を配置し、保育の質の向上をめざし、乳児保育のさらなる充実をめぐる。
- ・0・1歳児クラスを編成し、少人数保育を実現したことを検証していく。
- ・分園は地域との協定に基づき、児童数を守っていく。
- ・25周年記念に向けて保護者会と協議する。